

風の盆

文学と伝承



小松 朗

風の盆

文学と伝承



天満町



福島 2009 年



下新町亀山さん（胡弓）



東町の兄妹 2005 年



深夜の諏訪町 2004 年

越中八尾 イラストマップ

H17.4.1.12
市町村合併して
八尾町は富山市と
なりました。

八尾の駅跡地
先秦から古に
全国へ馬車で

水陸交通
世界の城の博物館



八尾城跡
世界の城の博物館

八尾城跡 (跡の跡跡跡)
八尾城は富山城。
おわらの富山と富山の跡)

富山市は
養老で富士
ました。
おおやま
はくと
くわん

城ヶ丘公園
西田代白山公園
城跡、城跡など有
八尾の跡一望
できる

圓光寺 (エンカウジ)
1532年建立。
八尾町は、この寺の
門前町として栄えた。

おわら富士館
大型スクリーン
映画にておもて
体感できる

ゆうゆう館
富山市日暮りごと
食いしり 湯足覚見

八尾の跡周囲には、
多くの橋がかかるので、
おもろかにらぬかといふ事
は結構あるのかね。清浦川、
十二、富山川、高木、高木、
野柳の橋の……

目次

風の盆とは何か 1

第一章 序

文学編

小杉放庵	『八尾四季』	
長谷川伸	『一本刀土俵入り』	5
野口雨情	『軒端雀の歌』	
吉井勇	『流離抄』	
五木寛之	『風の柩』	
高橋治	『風の盆恋歌』	13
西澤裕子	『おわら囃子が風に乗る』	19
村木明	『風の盆』	26
北原正行	波残りの笠	40
他の作品の概観	『』	46
		42

第二章

伝承編

文学と風土
.....
52

風の盆革新	55
甚六会	58
風の盆の伝承	64
風の盆の命名	76
おわら節の発生	85

第三章

紀行編 風の盆の十年

あとがき	164
参考文献	168
風の盆紀行（二〇〇〇年）	93
風の盆を見に行く（World Tour OR 佳作作品二〇〇一年）	112
風の盆道中記（二〇〇一年）	117
八尾町の日々（二〇〇二年～二〇〇五年）	135
雁の歌（二〇〇六年～二〇〇九年）	152

序　風の盆とは何か

富山から高山線の単線で五駅目に八尾町がある。

この越中八尾駅は、町外れにある。

駅前の福島から道なりに歩くと、やがて井田川にかかる十三石橋に出る。

この橋から右上に聞名寺と八尾旧町が見えてくる。ここが風の盆の舞台である。

「越中おわら風の盆」は、江戸時代から、この町で続いてきた祭りである。立春から二百十日にある九月一日から四日未明まで、町筋を民謡「越中おわら節」を演奏し歌い踊る。

この優美な踊りや深夜の町流しは、日本に無数にある祭りのなかでも際立つて異色な静けをもつてている。

その特徴は、踊り手の編笠を深く被り顔を見せないことや十一町の保存会ごとに浴衣の色や模様が違うこと。この正式な浴衣は二十五歳までの独身女性しか着られないという伝統が残っている。演奏に胡弓が使われることも有名で、現在芸能において胡弓が使われるものは歌舞伎と二、三の民謡だけである。また、東新町にだけ伝わる少女の早乙女衣装や朝の八尾駅での福島の「送りおわら」も有名である。

この祭りが全国的な人気となつたのは、昭和六十年（一九八五年）に発表された高橋治著の『風の盆恋歌』とそれに続いた昭和六十三年、石川さゆり歌唱の同名曲の影響が大きい。

この曲は高橋治と交友のあつた、なかにし礼の作詞によるもので、平成元年の日本作詞大賞

続きは
完成版で
お楽しみ下さい。